

第 237 回「地域の会」定例会資料〔前回定例会以降の動き〕

【発電所に係る情報】

- ・2月14日 7号機循環水系配管の再点検について [P. 2]
- ・2月14日 (運転保守状況) 1号機港湾内への油の流出の可能性について
(区分Ⅲ) [P. 3]
- ・2月14日 (運転保守状況) 免震重要棟2階会議室のパソコンからの火災について
(区分Ⅰ) [P. 4]
- ・2月22日 7号機における原子炉系主要設備の健全性確認について [P. 5]

【その他】

- ・2月13日 小千谷市・見附市・十日町市・燕市・出雲崎町における
「東京電力コミュニケーションブース」の開設について [P. 7]
- ・2月17日 プルトニウム利用計画について [P. 9]
- ・2月20日 2024年度採用計画について [P. 10]
- ・3月1日 除雪に関する取組み事項について [P. 12]

【福島第一原子力発電所に関する主な情報】

- ・2月22日 福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップの進捗状況
[別紙]

＜参考＞

当社原子力発電所の公表基準（平成15年11月策定）における不適合事象の公表区分について

区分Ⅰ 法律に基づく報告事象等の重要な事象

区分Ⅱ 運転保守管理上重要な事象

区分Ⅲ 運転保守管理情報の内、信頼性を確保する観点からすみやかに詳細を公表する事象

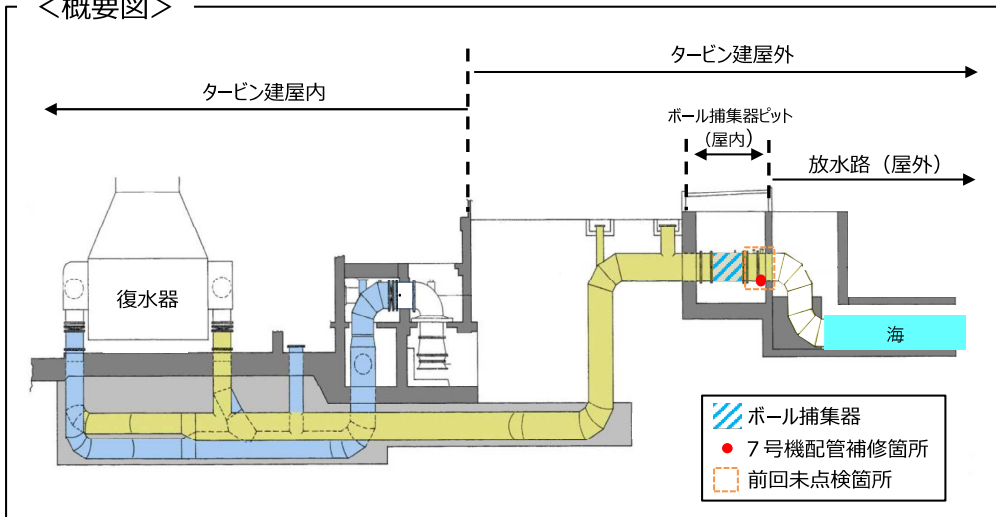
その他 上記以外の不適合事象

以 上

7号機循環水系配管の再点検について

- 7号機循環水系配管の内面点検は、今週末以降、準備が整い次第、実施予定
- 内面点検方法は、水平部は直接目視、垂直部はドローンによる間接目視により実施
- なお、点検の際、内面塗膜損傷防止の観点から、以下の点に留意して対応
 - ・ 作業時に持ち込む工具は、落下防止紐を装着
 - ・ 足場材を使用する場合、配管内搬入前に損傷防止キャップ等を装着
 - ・ ドローンは、本体周囲に配管素材より柔らかい緩衝材を装着
- また、6号機ボール捕集器出口配管についても、今年度内を目途に内面点検を実施予定

<概要図>



点検に使用するドローン

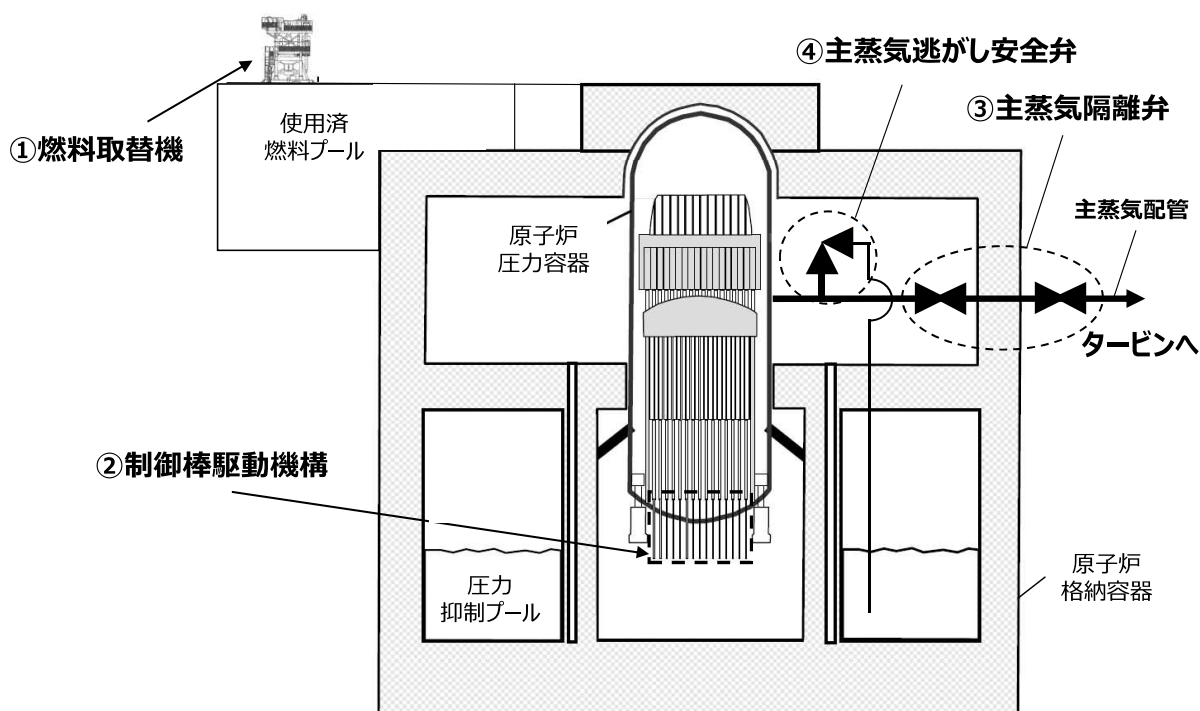


発生日	2022年9月21日		
号機	1	件名	港湾内への油の流出の可能性について（区分：Ⅲ）
【事象の発生】 2022年9月12日、1号機屋外に設置している空調設備（非管理区域）において、微量の油漏れがあり、設備の停止および油漏れ箇所の養生等を実施しておりました。 （不適合情報として9月20日当社ホームページへ掲載済） 9月20日、9時34分頃、当該設備の状況確認をした当社社員が、空調設備の養生箇所から油膜が広がっていることを確認しました。油膜については、吸着マットによる回収を実施していますが、油膜は排水路に通じていたことから、極僅かに（数十cc程度）港湾内に到達した可能性もあり、10時45分に長岡地域振興局に報告しました。 【対応状況】 今後、本事案の原因調査を実施し、再発防止対策を講じてまいります。 （2022年9月21日にお知らせ済み） 【原因】 <u>原因調査の結果、空調設備（空冷チラー）の熱交換用銅管の外表面が腐食し、微細な穴（ピンホール）が発生、漏洩に至ったものと判明しました。</u> 【対策】 <u>当該設備は、内包する潤滑油および冷媒を全て回収し、休止設備（設備停止）としました。</u>			

発生日	2023年1月17日		
号機	－	件名	免震重要棟2階会議室のパソコンからの火災について（区分：I）
【事象の発生】 2023年1月17日午前3時41分免震重要棟火報盤に火災警報が発生し、現場を確認したところ、免震重要棟2階会議室4にて、パソコンから火が出ていることを確認したため、3時43分当社社員により消火器による初期消火を実施し、3時46分119番通報を実施しました。公設消防による現場確認の結果、4時13分に「鎮火」を確認しました。 なお、本件による外部への放射能の影響および、けが人の発生はありません。 【対応状況】 公設消防による現場検証の結果、ノートパソコンのバッテリー部分から出火したものと推定され、<u>現在、公設消防にて詳細調査を実施しているところです。</u>詳細調査の結果が判明次第、別途、お知らせいたします。			

7号機における原子炉系主要設備の健全性確認について

- 発電所の目指す姿のひとつである「安全対策工事の完遂と、主要設備の機能が十分に発揮できること」の一環として、主要な原子炉系設備（下図①～④）の一部の健全性確認を実施
- 2月24日以降、原子炉のふたを開けて確認を開始。なお、原子炉系設備の健全性確認は、燃料装荷後も続くものではあるが、今回は、燃料の移動を伴わない部分を確認



1

①燃料取替機の健全性確認（模擬燃料を使用）

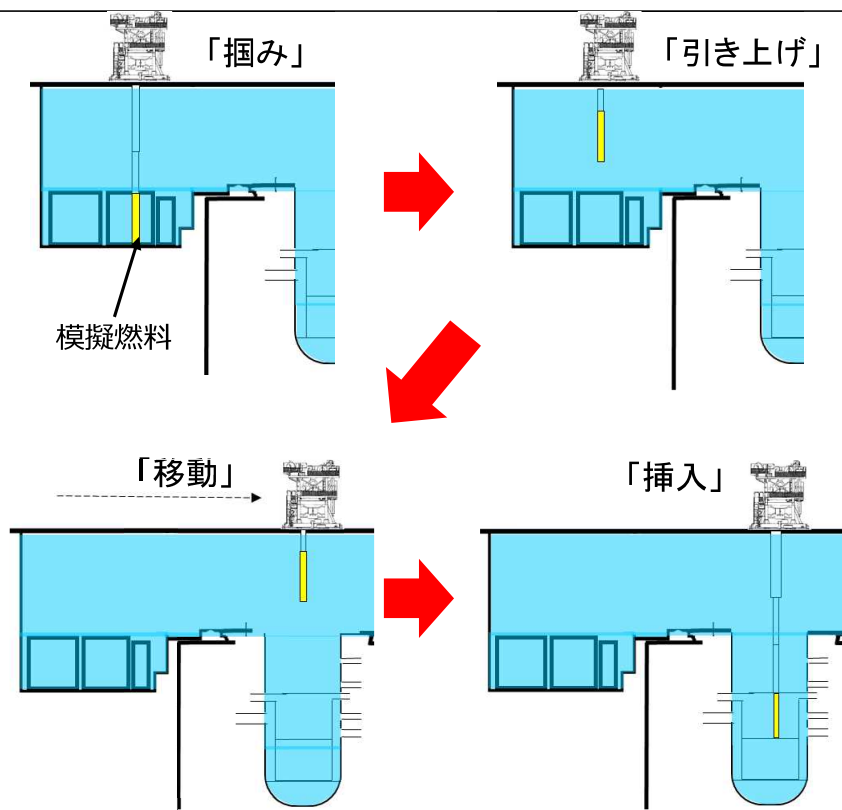
【設備概要】

- 燃料を原子炉および使用済燃料プールに移動させる設備

【確認概要】

- 実際の燃料とサイズや重さが同じ模擬燃料を用い、「掴み」、「引き上げ」、「移動」、「挿入」等が出来るかを確認

燃料取替機全体



②制御棒駆動機構の健全性確認

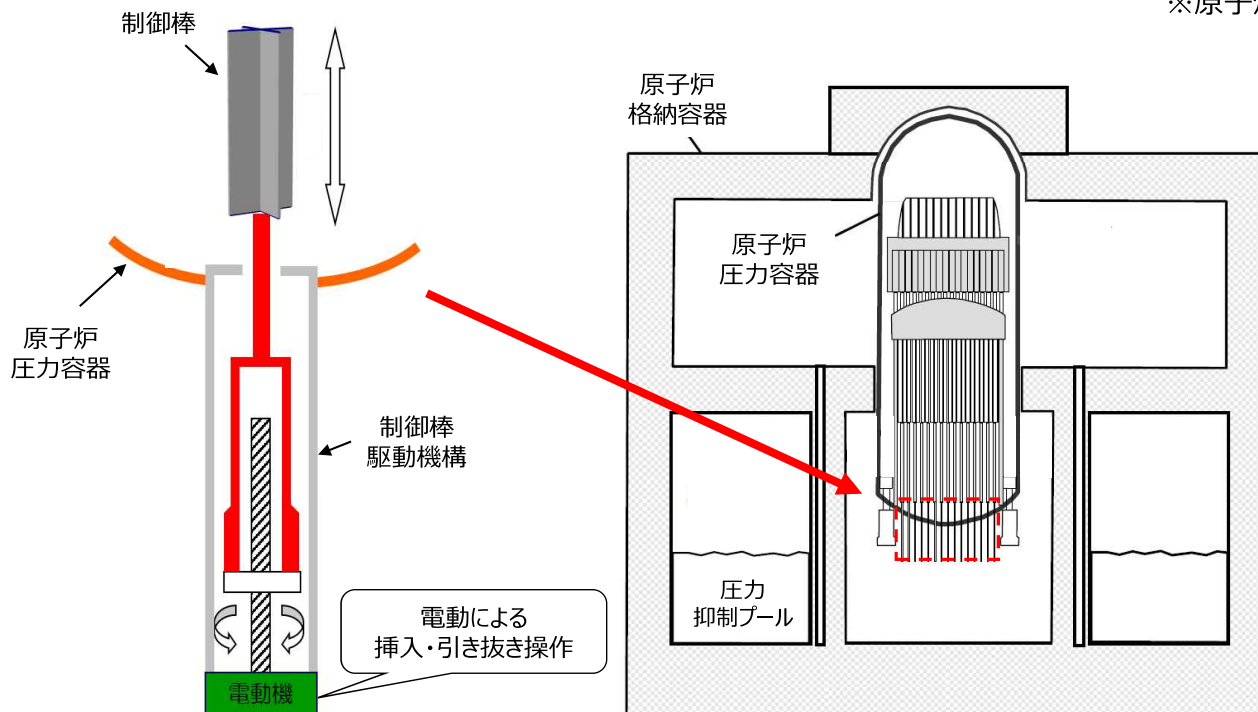
【設備概要】

- 原子炉の起動時、停止時、出力制御時に電動または緊急時には水圧にて制御棒を動かす設備

【確認概要】

- 205本の制御棒について1本ずつ電動による挿入・引き抜き操作を行い、全ての制御棒駆動機構が正しく動作することを確認
- 水圧による動作確認（スクラム※動作確認）は、燃料装荷後に実施

※原子炉緊急停止



3

③主蒸気隔離弁、④主蒸気逃がし安全弁の健全性確認の概要

【設備概要】

- ③主蒸気隔離弁：万が一の事故時に、放射性物質を含む蒸気等が原子炉格納容器の外側に流れないようにするための弁

- ④主蒸気逃がし安全弁：主蒸気隔離弁が閉まった際に、原子炉の蒸気を圧力抑制プールに逃がし、原子炉圧力を低下させることで、低压注水を行えるようにするための弁

【確認概要】

- 主蒸気隔離弁の動作確認および漏えい確認
- 主蒸気逃がし安全弁の動作確認

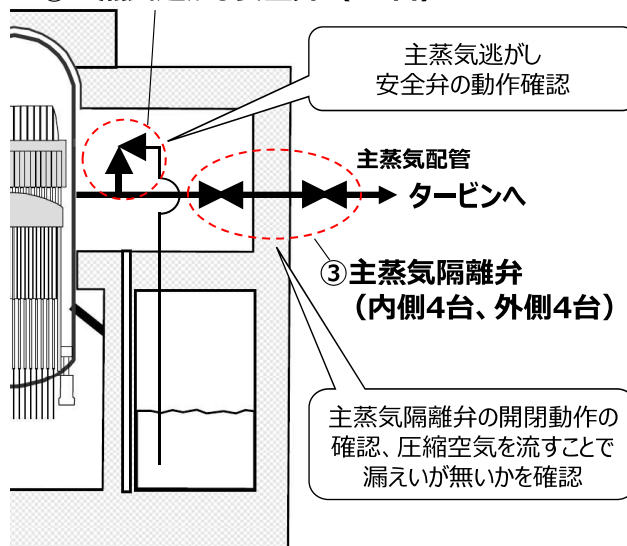
③主蒸気隔離弁（内側）



④主蒸気逃がし安全弁



④主蒸気逃がし安全弁（18台）



4

(お知らせ)

小千谷市・見附市・十日町市・燕市・出雲崎町における
「東京電力コミュニケーションブース」の開設について

2023 年 2 月 13 日

東京電力ホールディングス株式会社
新潟本社

当社は、柏崎刈羽原子力発電所における一連の不適切事案を踏まえ、現在進めている取り組みを一過性のものとせず、常に安全を追求するとの視点に立ち、「柏崎刈羽原子力発電所の目指す姿」*を策定し、原子力改革に取り組んでいます。

また、「本社機能の一部移転」、「外部専門家の登用」、「核物質防護事案への対応」について一つひとつ着実に進めるとともに、引き続き原子力改革を進めてまいります。

これらの取り組みに対する進捗状況を地域の皆さまと直接お会いし、一人ひとりにご説明させていただくとともに、ご意見を拝聴し、その声を原子力改革へ活かすため、以下の通り「東京電力コミュニケーションブース」を開設いたします。

* 柏崎刈羽原子力発電所の目指す姿

- (1) 核物質防護事案の各改善措置項目の効果が十分に発揮できていること
- (2) 安全対策工事の完遂と、主要設備の機能が十分に発揮できること
- (3) 緊急時等の対応能力が十分であること
- (4) 発電所で働く全ての人々が円滑にコミュニケーションを図っていること

<小千谷市・見附市>

- ・ 期間：2023 年 2 月 23 日（木・祝）～2 月 25 日（土）
- ・ 時間：10 時 00 分～16 時 00 分
- ・ 場所：イオン小千谷店（小千谷市大字平沢新田字荒田 339）
PLANT-5 見附店（見附市上新田町 725-1）

<十日町市・燕市>

- ・ 期間：2023 年 3 月 3 日（金）～3 月 5 日（日）
- ・ 時間：10 時 00 分～16 時 00 分
- ・ 場所：リオン・ドール十日町店（十日町市旭町 161）
分水ショッピングパーク パコ（燕市分水新町 1-6-5）

<出雲崎町>

- ・期間：2023 年 3 月 18 日（土）・3 月 19 日（日）
- ・時間：10 時 00 分～16 時 00 分
- ・場所：出雲崎町保健福祉総合センター ふれあいの里
（三島郡出雲崎町大字大門 394-1）

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じたうえで実施しますので、ご来場の際にはご協力をお願いいたします。

以 上

【本件に関するお問い合わせ】

東京電力ホールディングス株式会社

新潟本社 渉外・広報部 報道グループ 025-283-7461（代表）

プルトニウム利用計画について

2023 年 2 月 17 日

東京電力ホールディングス株式会社

本日（2 月 17 日）、電気事業連合会が、新たなプルトニウム利用計画を公表しました。

電力 9 社（除く沖縄電力）と日本原子力発電、電源開発の電力 11 社は、「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方」（2013 年 7 月、2018 年 7 月原子力委員会決定）に基づき、利用目的のないプルトニウムは持たないとの原則の下、プルトニウム保有量の適切な管理に向けて、最大限取り組んでおります。

また、「プルサーマル計画の推進に係るアクションプラン」（2022 年 12 月策定、電気事業連合会より公表）を踏まえ、地元理解に向けた各社の取り組みの情報共有・知見の共有、自社で保有するプルトニウムは自社の責任で消費することを前提としつつ事業者間でプルトニウムを交換することなどを、計画的に進めているところです。

当社は、現段階では、プルサーマルの具体的な計画について見通せる状況にはありませんが、資源の乏しいわが国において、将来にわたりエネルギーを安定的に確保していくためには、国内における原子燃料サイクルの確立は不可欠との認識の下、プルサーマルを推進していくという方針に変わりありません。

地域のご理解を大前提に、引き続き、電気事業連合会をはじめ、関係各所と連携して、プルトニウムの利用を推進してまいります。

以 上

【参考】電気事業連合会 HP

https://www.fepc.or.jp/about_us/pr/oshirase/1261073_1458.html

【本件に関するお問い合わせ】
東京電力ホールディングス株式会社
広報室 原子力報道グループ 03-6373-1111（代表）

2024 年度 採用計画について

2023 年 2 月 20 日

東京電力ホールディングス株式会社
東京電力フュエル&パワー株式会社
東京電力パワーグリッド株式会社
東京電力リニューアブルパワー株式会社
東京電力エナジーパートナー株式会社

東京電力ホールディングス株式会社、東京電力フュエル&パワー株式会社、東京電力パワーグリッド株式会社、東京電力リニューアブルパワー株式会社および東京電力エナジーパートナー株式会社の 5 社（以下、「東京電力グループ」）は、本日、2024 年度採用計画を取りまとめました。

東京電力グループは、福島への責任を全うしながら、安定的かつ低廉な電力をお届けするという使命を果たし、その上で競争を勝ち抜いて企業価値を向上させるため、それらの源泉となる人財の計画的な確保・育成に取り組んでいます。

昨今、ウクライナ情勢等の影響による燃料・卸電力市場価格の高騰など、エネルギー事業を取り巻く環境は大きく変化しています。

そのような状況においても、引き続き、多様化するお客さまニーズ、カーボンニュートラル実現に向けた取り組み、防災・電力レジリエンス強化などに対応していくとともに、長期にわたる安全かつ着実な廃炉作業の貫徹、地元・社会の皆さまからの信頼回復に向けた取り組みを着実に進めていく必要があります。

そのため、東京電力グループは、2023～2025 年度の各年度において、約 750 人の採用を計画しておりましたが、2024 年度においては、約 850 人の人財を採用していくこととしました。

なお、福島復興のために継続的な雇用について最大限貢献していくという観点から、福島県内の大学・短期大学・高等専門学校・高等学校などから約 45 人の採用を目指します。

また、新卒やキャリア採用に限らない第二新卒採用を強化するなど、多様な人財の採用を進めてまいります。

採用活動にあたっては、新型コロナウイルス感染状況等も踏まえ、オンライン説明会や面接等も活用し、学生の皆さまへの積極的な情報提供と安全の確保に努めてまいります。

東京電力グループは、新たな仲間を迎え、当社の経営理念である「安心して快適なくらしのためエネルギーの未来を切り拓く」の実現に向けて、変革を恐れず挑戦し、技術・技能の確実な継承も図りながら、企業価値の向上に努めてまいります。

	採用人数		
	2023 年度	2024 年度	2025 年度
東京電力ホールディングス株式会社	合計 約 750 人	合計 約 850 人 (予定)	合計 約 750 人 (予定※)
東京電力フュエル&パワー株式会社			
東京電力パワーグリッド株式会社			
東京電力リニューアブルパワー株式会社			
東京電力エナジーパートナー株式会社			

・採用人数は、新卒採用・キャリア採用を含む
・5 社一括で年間を通じて採用活動を実施（5 社の内訳は、各社事業計画を踏まえ今後決定予定）
※現時点の計画であり、2024 年度計画の状況も踏まえて今後、見直す可能性あり

募集要項等の情報は、2023 年 3 月 1 日以降、東京電力ホールディングス株式会社ホームページ採用ウェブサイトに掲載する予定です。

（採用ウェブサイト URL：http://www.tepco.co.jp/personnel/index-j.html）

以 上

【本件に関するお問い合わせ】
東京電力ホールディングス株式会社
広報室 経営報道グループ 03-6373-1111（代表）

除雪に関する取組み事項について (3月活動報告)

2023年3月1日
東京電力ホールディングス株式会社
新潟本社

TEPCO

■ 取組み事項

TEPCO

取組み事項

発電所周辺道路の除雪について

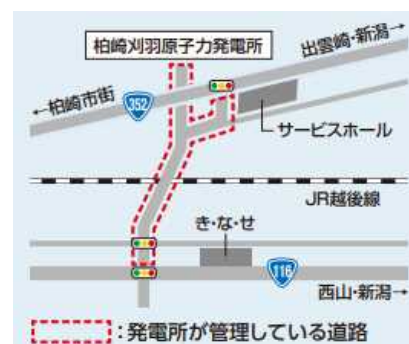
いただいた声

- 発電所周辺道路の除雪について、もっと道路の確保をしてほしい。
- 構内の除雪大変だと思うが、発電所の入口までの坂道の除雪が悪かった。

取組み内容

発電所周辺道路の除雪については、協力企業の皆さんにもご協力をいただきながら、凍結防止剤の散布や積雪量に応じた除雪を行っておりますが、今年度は新たにロータリ除雪車を1台導入して、2022年12月の大雪の際に活用しました。
引き続き、周辺道路の渋滞をできる限り発生させないよう、円滑な車両通行の維持に努めてまいります。

本取組み事項については、広報誌NEWSアトム 2月号でも
お知らせいたしました



ご質問への回答

<宮崎委員>

Q1-1. 安田層と古安田層は不整合関係にあることを認めて質問しています。回答の中に「地質調査結果から、段丘面の標高や各層序の出現標高を参考に作成した地質平面図」「夢の森公園の丘陵は、上部が安田層、下部が古安田層で構成されると考えております。」とあります。東電は、地質平面図の他、断面図（模式的）も公表しています。公表された図を使わせてもらいお聞きします。

「地質調査結果」をもとにこの平面図も断面図もできたわけです。「上部が安田層、下部が古安田層で構成される」との東電の考えが、「調査結果」で「実証」できるものと思いお聞きします。横山丘陵の地下に「不整合」があることは、理解しました。ならば、断面図の Kg-4(夢の森公園周辺)のボーリングで、「不整合」を立証するコアが得られたわけです。「得られた」と理解してよろしいですか。(質問)

A 1-1.

- 当社は、ボーリング Kg-4 地点において、深度約 13m（標高約 17m）で安田層と古安田層の境界を確認しております。なお、ボーリング柱状図は、日本地球惑星科学連合 2021 年大会において既に公表しております。

Q1-2. 平面図では、「夢の森公園の丘陵」は、濃い緑色 = PY で縁取られ、内側に薄い緑色 = y が塗られています。丘陵の上は安田層上部、下は古安田となっている。しかし、断面図では、上と下の間に安田層下部が存在すると示されています。平面図を訂正しないのですか。(質問)

A 1-2.

- A 1-1 で回答したとおり、当社が 2019 年 11 月～2020 年 3 月に実施したボーリング Kg-4 地点の調査結果からは、安田層と古安田層の境界は標高 17m 程度に位置することを確認しています。一方、当社が 2017 年に作成した地質平面図（質問状に引用いただいた図）では、夢の森公園付近において、およそそれと合致する標高に安田層と古安田層の境界が表現されており、今回の調査と矛盾するものではありません。

なお、ボーリング Kg-4 地点の位置においては、古安田層の上位の安田層は「安田層下部」であることを確認しましたが、このことの地質図への反映については、必要に応じて今後検討してまいりたいと思います。

Q1-3. 東電の調査で断面図のKg-4に「不整合」が確認されたわけですから、丘陵の側面・崖に「不整合」箇所がみられるはずです。藤橋の北側や東側、夢の森公園の散策道に行っていますが、それらしいものが見えませんでした。

これまでの回答は、「総合して」とか「考えて」とはぐらかされていますが、ボーリング Kg-4 の位置を教えてください。しっかり見てきます。ボーリング Kg-4 の位置はどこですか。
(質問)

A 1-3.

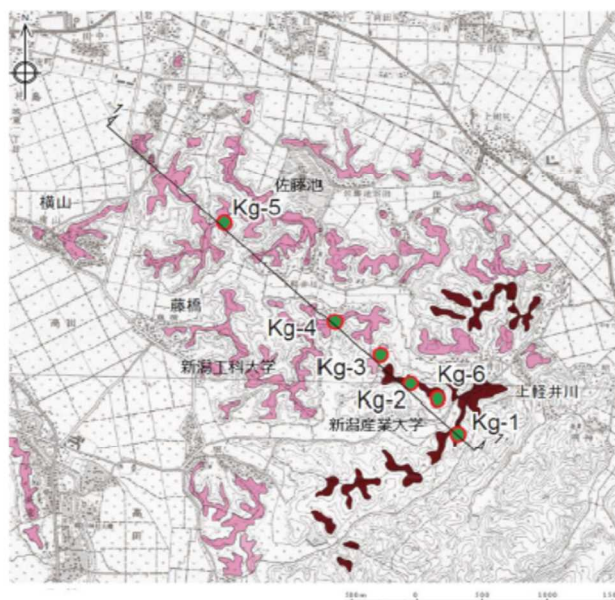
- ボーリング Kg-4 地点の位置は以下となります。本資料は、日本地球惑星科学連合 2021 年大会において公開しております。(同年 6 月 24 日のプレスリリースでもお知らせ済み)

調査範囲

TEPCO

柏崎平野南東部の中位段丘（約12～13万年前）および高位段丘（約20万年前以前）の地形面に、各3箇所ずつ計6箇所のボーリング調査を実施

凡 例
■ 中位段丘
■ 高位段丘
● Kg-1 本調査におけるボーリング位置・番号



この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（昭和28年、昭和30年、昭和33年、昭和35年、昭和37年、昭和39年、昭和41年発行）を基にしたものである。

このうち、ボーリング Kg-4 地点の詳細な位置は次のとおりです。



Q2-1. かつて、姉川常務が「避難計画が出来なければ再稼働することはない。」と明言されていたので、1月30日、東電の市民説明会で姉川常務の発言は、今も東電の考えとして引き継がれたのか質問しました。

橘田新潟本社代表から、「東京電力が、広域避難計画の完成状態を評価する立場にない。」との趣旨の説明を聞きました。この回答は、「姉川常務の発言・考えは、引き継いでいない。」ということですか。（質問）

A 2-1.

- 各自治体の避難計画は、原子力災害対策指針等を踏まえ策定されており、万が一の事故の際に対象となる地域にお住まいの方々が取るべき避難等の防護措置について定められています。
- 他方、実際の避難にあたっては、事故の進展状況や天候をはじめ様々なケースが考えられることから、各自治体におかれては「避難計画に完璧や完成はない」という考えのもと、訓練などを通じて、常に課題を改善して避難計画に反映するなど、実効性を高めるための改定を継続されていくものと認識しております。
- 自治体が策定された避難計画について、当社がその実効性を評価する立場にはありませんが、避難の実効性を高める取り組みにつきましては非常に重要であると考えており、事業者として最大限のご協力・ご支援を行ってまいります。

2-2.「東京電力が、広域避難計画の完成状態を評価する立場にない。」とする考えは理解しました。しかし、疑問は、東電は仮置きとして言っている今年10月の営業運転前に、運転の「地元の同意」を求めるわけです。

新潟県は、避難訓練を繰り返して、より実効性のある計画にしていると言っていますが、裏を返せば、今は実効性のない計画だと宣言しています。広域避難計画が実効性のないものであっても、東電は「地元の同意」を求めるということですか。(質問)

A 2-2.

- 繰り返しになりますが、各自治体の避難計画は、原子力災害対策指針等を踏まえ策定されており、万が一の事故の際に対象となる地域にお住いの方々が取るべき避難等の防護措置について定められています。
- 他方、実際の避難にあたっては、事故の進展状況や天候をはじめ様々なケースが考えられることから、各自治体におかれては「避難計画に完璧や完成はない」という考えのもと、訓練などを通じて、常に課題を改善して避難計画に反映するなど、実効性を高めるための改定を継続されていくものと認識しております。
- 自治体が策定された避難計画について、当社がその実効性を評価する立場にはありませんが、避難の実効性を高める取り組みにつきましては非常に重要であると考えており、事業者として最大限のご協力・ご支援を行ってまいります。
- いずれにいたしましても、当社として再稼働は地元のご理解が必要という考えに変わりはありません。

以上

ご質問への回答

<竹内委員>

Q. 3つの検証について

可能であれば、新潟県の3つの検証で明らかになった課題、主に技術委員会が出された22の確認事項について、どのように受け止めていて、どれを既に対応したのか、また、今後、対応していく予定があるのかどうか、お伺いしたいです。

A.

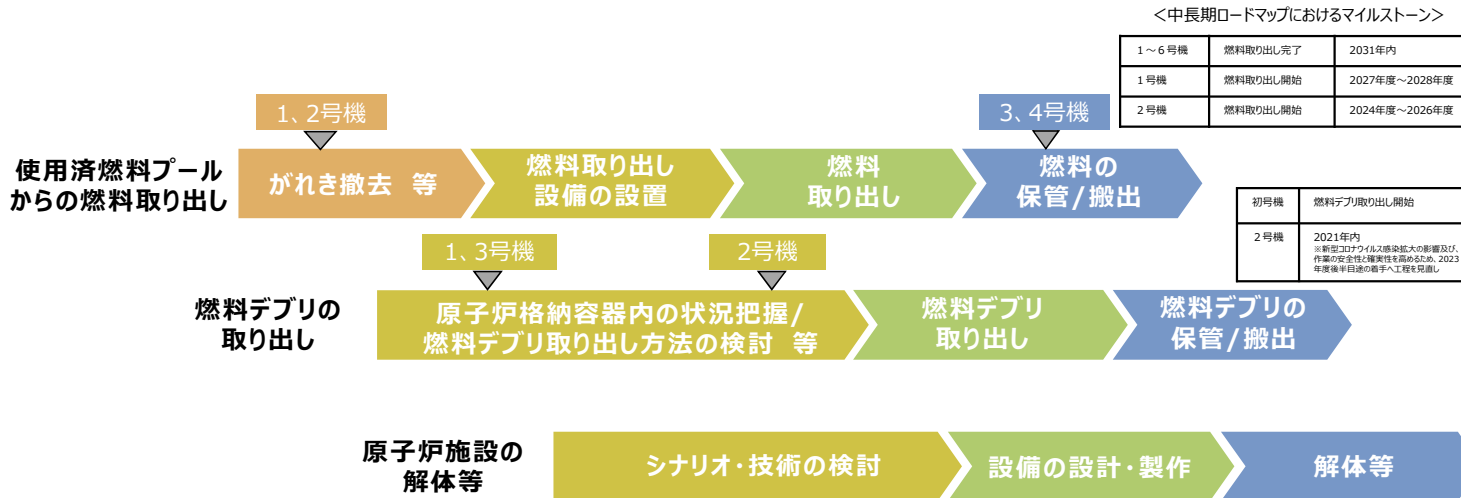
新潟県民の皆さまの安全・安心のためにも、検証作業は重要な事であると考えており、引き続き最大限のご協力をさせていただきたいと考えています。

今後も、当社が保有する福島第一原子力発電所や柏崎刈羽原子力発電所に関するデータや知見の提供など、当社として最大限のご協力をさせていただきたいと考えています。

「廃炉」の主な作業項目と作業ステップ

使用済燃料プールからの燃料取り出しは、2014年12月22日に4号機が完了し、2021年2月28日に3号機が完了しました。引き続き、1、2号機の燃料取り出し、1～3号機燃料デブリ(注1)取り出しの開始に向け順次作業を進めています。

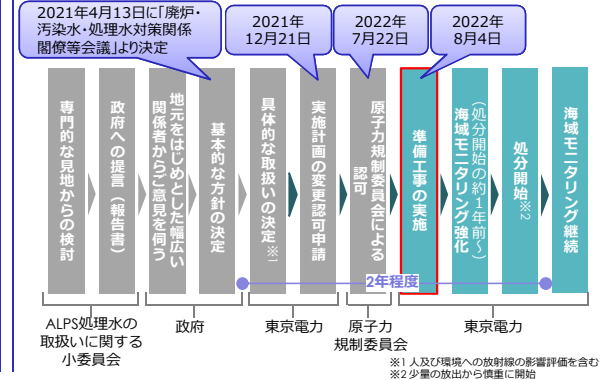
(注1)事故により溶け落ちた燃料



処理水対策

多核種除去設備等処理水の処分について

ALPS処理水の海洋放出に当たっては、安全に関する基準等を遵守し、人及び周辺環境、農林水産品の安全を確保してまいります。また、風評影響を最大限抑制するべく、モニタリングのさらなる強化や第三者による客観性・透明性の確保、IAEAによる安全性確認などに取り組むとともに、正確な情報を透明性高く、継続的に発信してまいります。



汚染水対策 ～3つの取組～

(1) 3つの基本方針に従った汚染水対策の推進に関する取組

①汚染源を「取り除く」 ②汚染源に水を「近づけない」 ③汚染水を「漏らさない」

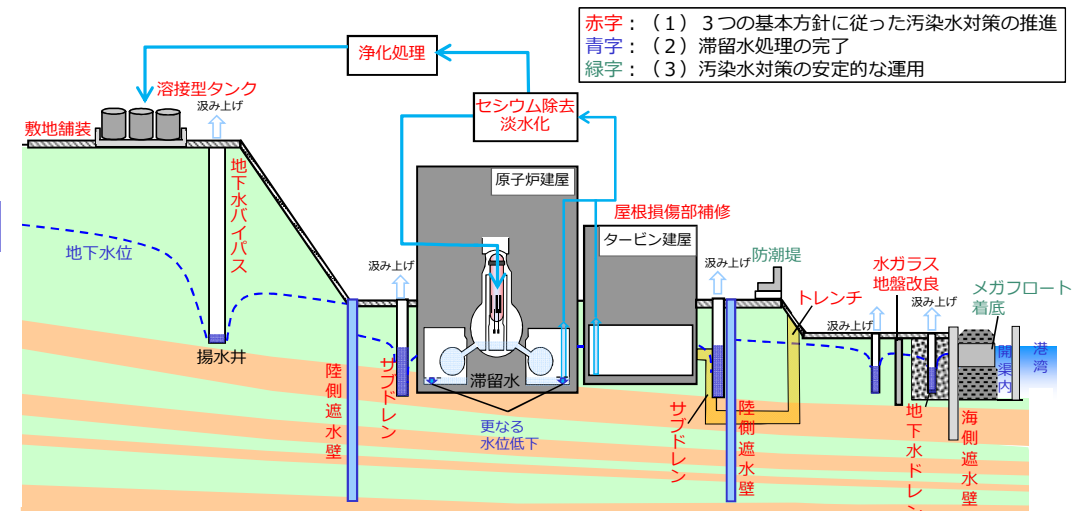
- 多核種除去設備以外で処理したストロンチウム処理水は、多核種除去設備での処理を行い、溶接型タンクで保管しています。
- 陸側遮水壁、サブドレン等の重層的な汚染水対策により、建屋周辺の地下水位を低位で安定的に管理しています。また、建屋屋根の損傷部の補修や構内のフェーシング等により、降雨時の汚染水発生量の増加も抑制傾向となり、汚染水発生量は、対策前の約540m³/日（2014年5月）から約130m³/日（2021年度）まで低減しています。
- 汚染水発生量の更なる低減に向けて対策を進め、2025年内には100m³/日以下に抑制する計画です。

(2) 滞留水処理の完了に向けた取組

- 建屋滞留水水位を計画的に低下させるため、滞留水移送装置を追設する工事を進めております。
- 2020年に1～3号機原子炉建屋、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋を除く建屋内滞留水処理が完了しました。
- 今後、原子炉建屋については2022年度～2024年度に滞留水の量を2020年末の半分程度に低減させる計画です。
- プロセス主建屋、高温焼却炉建屋の地下階に、震災直後の汚染水対策の一環として設置したゼオライト土嚢等について、線量低減策及び安定化に向けた検討を進めています。

(3) 汚染水対策の安定的な運用に向けた取組

- 津波対策として、建屋開口部の閉止対策を実施しました。現在、防潮堤設置の工事を進めています。また、豪雨対策として、土嚢設置による直接的な建屋への流入を抑制するとともに、排水路強化等を計画的に実施していきます。



取組の状況

- ◆ 1～3号機の原子炉・格納容器の温度は、この1か月安定的に推移しています。
また、原子炉建屋からの放射性物質の放出量等については有意な変動がなく、総合的に冷温停止状態を維持していると判断しています。

多核種除去設備等処理水の取扱いに関する実施計画変更認可申請書の一部補正について

東京電力は、ALPS処理水希釈放出設備の運転・保守管理等の組織体制、海洋放出前に放出基準を満足していることを確認するための測定・評価対象核種、海洋放出に係る放射線環境影響評価結果（建設段階）等を反映するため、2022年11月14日に多核種除去設備等処理水の取扱いに関する実施計画変更認可申請書を原子力規制委員会へ申請しています。

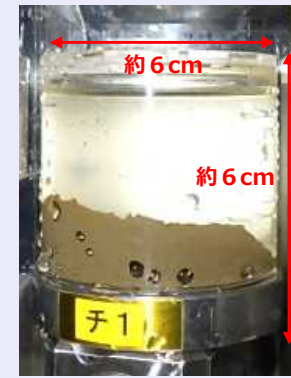
技術会合等でもいただいた原子力規制委員会からのご指摘やIAEAのご指摘事項等を踏まえ、2月14日及び2月20日に一部補正を行いました。

1号機 原子炉格納容器（PCV）内部調査（後半）の状況について

ROV-Dによる堆積物デブリ検知調査は、昨年12月6日から10日にかけて実施しました。調査ポイント全てにおいて、熱中性子束及びユーロピウムを検出したことから、燃料デブリから遊離した物質（燃料デブリ由来の物質）が調査範囲に広く存在していると推定しています。

ROV-Eによる堆積物サンプリング調査は、1月31日から2月1日にかけて2箇所、2月10日に2箇所の計4箇所で行いました。採取したサンプルについては、構外の分析機関への輸送を計画しています。

今後の調査では、ROV-Bによる堆積物の3Dマッピングを行い、その後ROV-A2によるペDESTAL内調査を計画しています。



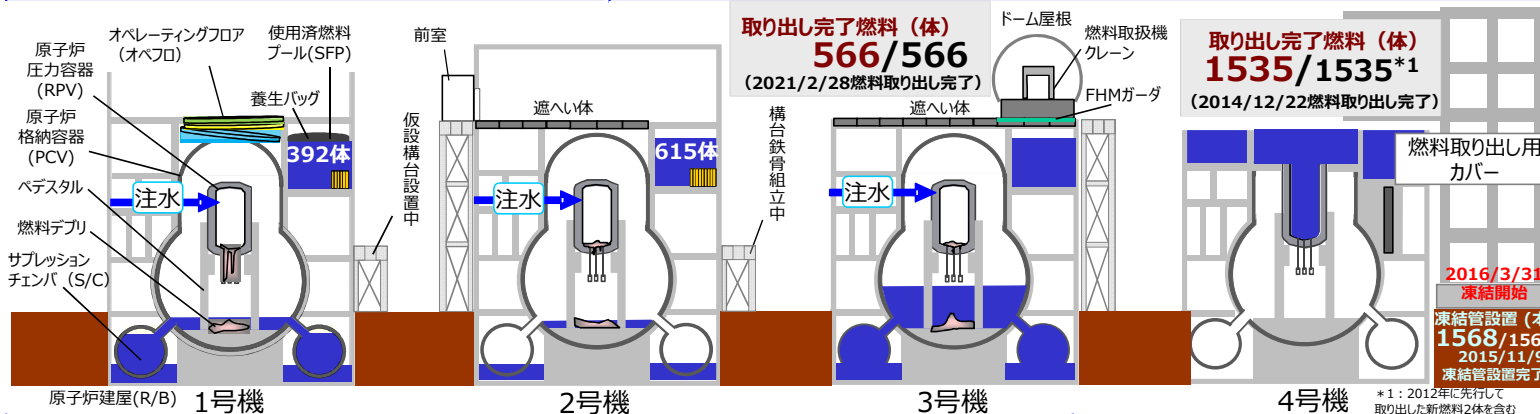
<ROV-E調査で採取したサンプル>

固体廃棄物の保管管理計画（改訂）

固体廃棄物の保管管理計画について、2023年2月に6回目の改訂を行いました。

「瓦礫等」、「水処理二次廃棄物」の発生量の実績及び今後10年程度の発生量予測値を反映しています。発生量予測値（約80万m³）のうち、約40万m³については減容する計画です。

また、将来発生が見込まれる燃料デブリ準備工事等で発生する廃棄物量（約45万m³）、構内で再利用することを念頭に、より適切な保管管理を行うため新しい廃棄物の管理区分に係る検討方針について記載しました。



1/2号機 SGTS配管一部撤去作業の再開に向けた進捗状況

1/2号機廃棄物処理建屋上部の非常用ガス処理系（SGTS）配管の一部撤去作業再開に向けて、信頼度向上対策を実施しています。

ダスト飛散防止対策として、SGTS配管にウレタンを追加注入する準備を進めています。

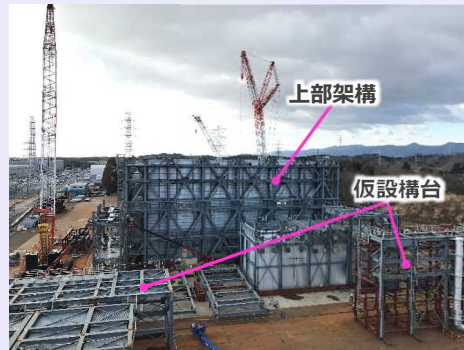
また、現地での更なる安全で効率的な作業ができるよう、モックアップにて現場を可能な限り模擬した配管を用いた切断確認を実施中です。配管の切断作業は3月上旬に再開する計画です。

1号機 使用済燃料取り出しに向けた大型カバー設置工事の進捗について

構外では、大型カバー設置に向けた鉄骨等の地組作業を実施中です。仮設構台、下部架構の地組が完了し、上部架構の地組が約83%完了しました。

構内では、大型カバーを支持するためのアンカー及びベースプレートの設置を実施しており、約31%完了しています。設置を終えた箇所から、仮設構台の設置を進めており、約60%完了しています。

また、原子炉建屋最上階（オペフロ）近傍でのアンカー削孔に向けて、作業に干渉する壁面からはみ出したガレキの先行撤去作業を3月から実施する計画です。



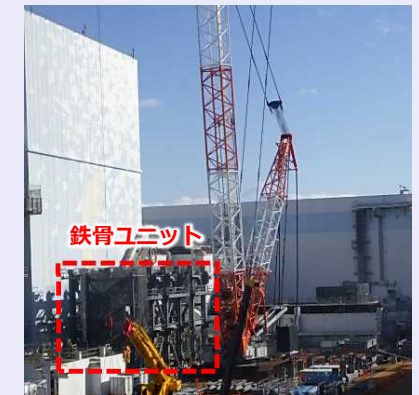
<鉄骨地組作業の様子（撮影日：2023.2.20）>

2号機 使用済燃料取り出しに向けた工事の進捗について

建屋内では、新設する燃料取扱設備の設置に干渉する燃料交換機操作室の撤去が11月29日に完了し、解体した瓦礫の搬出は1月31日に完了しました。2月6日より建屋内の他の干渉物（プール南側の既設設備）の撤去作業を実施中です。

建屋外では、構外の低線量エリアにて組み立てた鉄骨を構内に搬入し、1月23日より原子炉建屋南側において燃料取り出し用の構台の鉄骨の組み立て工事を開始しました。

引き続き、安全最優先で作業を進めていきます。



<2号機原子炉建屋南側ヤード全景（撮影日：2023.2.10）>

主な取組の配置図



提供：日本スペースイメージング（株）2021.4.8撮影
Product(C)[2021] DigitalGlobe, Inc., a Maxar company.